

真実のミステリーツアー

このミステリーツアーは、企画が始まった時から、普通の認識を超越して、現象化し始めていたように思います。

今年の一月に、バスの運転手さんの予定に合わせて六月二十、二十一日と決めたところからミステリーが起こり始めたのです。

二月、三月ごろから新型コロナウイルス発症、感染が広がり始め、各自行動の自粛から、県外への旅行の禁止など発令されました。

しかし、不思議なことに山本の頭の中では（五月中には終息に向かう）という想いがあり、ツアー中止の考えはありませんでした。さてここで山本にとって自業自得のプレッシャーが起こり、つぶれそうになりました。畏れ多くもお慕い申し上げる磐長媛様。美しく光り輝き過ぎて「見えにくかった」と言われるヒメのお姿を、一度描いてみたいという畏れ多いことを、ちよつと口走ったことで、書法会のブログに「雲見浅間神社に、書画奉納のツアー」などと書かれてしまい、もう後に引けなくなってしまうました。

人のお顔ならちよつとぐらいおかしくても、ごめんなさいで許されそうですが、美し過ぎる媛神様のお顔はどのように表現したらよいのか。描いては消し描いては消しの日々が続きました。0 0 1 ミリの線の引き方で表情が変わってしまうことも知りました。お顔が描かれる二、三日前、頭がくらくらと目まいがしたり、微熱が出たり（皆に知られたら家に監禁されてました）で、自分でも一体何ごとが起こるのかと思いました。そこで覚ったことは、心も魂も清まらなくては、神様の絵は描けないものということでした。

そして描き上げた瞬間の喜びは、もう子供のように踊り出しそうになりました。

ツアー二十日の当日は、昨日までの大雨とは打って変わり快晴。しかも県外への旅行の解禁も前日の十九日、という奇跡の連続です。その上に、この日は大安吉日、天赦日と一粒万倍日が重なった大変珍しい最高の吉兆の日とか。

出発し少しして東名高速上の事故で、一時間近く遅くなり、三島駅前で静岡方面からの参加者と合流では、大変にお待たせしてしまいました。

そこからは、三密にならないゆつたりとした空間をとった座席で出発です。

先ず近くの三嶋大社から参拝です。この御祭神は磐長媛、木花開耶姫の父神大山祇神（オオヤマツミノカミ）と積羽八重事代主神（ツミハヤエコトシロヌシノカミ）が祀られています。「明日雲見浅間神社の磐長媛様に、『地球と全ての命あるものを守られることへの感謝と、地球上を汚してきた人類の罪のお詫びを祈り、書画の奉納をさせて頂きます』、との想いを捧げました。そして境内に浄化の書を埋め、沼津へと向かいました。沼津の魚河岸丸天（〇、？）食堂で昼食を取り小休憩。

次に向かったのは「伊豆の国パノラマパーク」です。ロープウェイで山頂に登り、富士山と駿河湾が一望の場所。そこに祀られている葛城神社（御祭神は萬幡豊秋津師媛命（ヨロズハタトヨアキツシヒメノミコト）に災厄除去の祈願を捧げました。

そして夕方五時過ぎに堂ヶ島温泉「海辺の隠れ湯 清流」ホテルに到着。

ここも初め予約したホテルが閉館で、改めて予約できたホテルです。しかも宴会場から夕日が望めるというミステリアスの絶景観のホテルでした。その日は明日が夏至で、しかも新月という日。日没は七時二分。最も長い太陽の光の恵みの、沈みゆく美しい夕日を拝みながらの夕食は、最高の演出となりました。

真実のミステリーツアー(Ⅱ)

六月二十一日快晴。早朝から二回も温泉を満喫。

「温かき泉に浴す幸せは磐長媛の胸の中なる」「温かく優しき大地の泉こそ磐長媛の常永遠の愛」

いつもこんな想いで入る温泉です(笑)。

午前九時。雲見浅間神社を目指して出発。

平成二十四年七月に参拝した七年ぶりに訪れる神社です。胸が騒ぎました。愛慕う姫君にお会いするというドキドキ感です。鳥居をくぐり百二、三十段の石段を登り、拝殿到着。

お待ちになっていた高橋宮司様にご挨拶し、拝殿の中に全員着席。ご奉納の磐長媛命の御真影とお玉串をお渡ししました。

「どーんどーん」と太鼓が響き式典開始。全員お払いを頂き瞑目合掌。厳かに祝詞が始まり、そして代表五人が玉串奉奠。な、なんと立ち上がる時足が震えるような感動を覚えたのです。

無事式典終了。その後、私共のお礼の言葉を申し上げたいとお願いし、用意した山本の「日々命をお守り頂く感謝と、地球を汚してしまったお詫びの手紙」を祝詞のつもりで奏上。正に感極まった時でありました。そして全員で「いろは・ひふみ」を称え祈りました。

奉納の絵は、ご神殿に一番近く高い場所に掛けて頂きました。

伊勢神宮も熱田神宮も、神社仏閣に奉納されたものは、百年も二百年も大切に保管されるのです。この雲見浅間神社へこれから後は、多くの人々が参拝されるでありましょう。その人々に見て頂けることを思うと、感謝で一杯になりました。

さあそれからが大変。頂上の奥宮に、約六百段を登っての参拝ということです。(どうしようか?)と一瞬の迷いが頭を過ぎった時、建島女史の目がキラッと「行きましよう!」と光りました。もうあとは蛇に睨まれた蛙の如く足

が動き出したのです。そして彼女の力強い腕が山本のズボンの後ろのベルトを掴んで引き揚げつつ、まるで操り人形の如く頂上まで運ばれたのでした。

奥宮の前で再び皆さんというは・ひふみを奏上し、感謝の祈りを捧げました。

「もう僕はこれで死んでも本望だ!」と思った言葉が口から飛び出してしまいました。

さらに奥の岩山に登り浄化の書や、井野弁護士が仙台からお預かりしたサイババ師のビブティの粉を撒いてお清めをいたしました。

下山途中、以前、建島女史が不思議な光の洗礼を受けた場所で、皆で磐長媛をお称えする歌と言われる「君が代」を合唱。またまた胸が熱く声が詰まりました。こんな体験はもう二度と出来ないと思いつつ必死で下山(汗)。

昼食は中伊豆ワイナリーでのフランス料理を堪能。土産品などを買ひ、時間に押されて早々に出発しました。

そこから北上して須走富士浅間神社へと急ぎます。今日は夏至でしたが、五時三十分ぐらいから部分日食が始まるとかで、少し薄暗く感じ始めました。以前杉の太木の根元に、雲見海岸の石や砂を埋めた話を建島女史の説明を聴くのですが、肝心の杉の太木が消えていて、これも正にミステリー。

鳥居の左手の小さな滝の前で、建島女史の「ここで磐長媛と木花開耶姫が抱き合っていたのです」という説明に、再び七年前の感動が蘇りました。

この二日間のミステリーバスツアーも、全ての工程を終えて、静岡方面からの参加者とのお別れの、御殿場駅に急ぎました。

バスの中では皆さんの感想をお聞きしつつ、二日間の楽しく親しいご縁に感謝し、人生観が変わられた人、涙で心が洗われた人、感謝と感動と歓喜の二日間となりました。

新宿には午後八時半ごろ無事到着。明日への新たな希望と喜びを感じた旅となりました。